

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471300259	事業の開始年月日	平成15年6月1日	
		指定年月日	平成15年6月1日	
法人名	社会福祉法人 大磯恒道会			
事業所名	グループホーム こゆるぎの家			
所在地	(〒259-0111) 神奈川県中郡大磯町国府本郷1194-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念を基に利用者がその人らしく生活できるよう、可能性を引き出す工夫をしつつ支援している。
 季節ごとの行事やリクリエーションを行い、暮らしに楽しみを持てるように工夫している。昔の経験を生かした味噌作りや梅干作り等が定着している。
 個々の経験を生かして、習字を得意とする人には、題名等の書き物をお願いし裁縫、編物が得意な方には、バザー出展に協力して頂き、人前で話す事に慣れている方には、行事の挨拶をお願いする、というように、活躍できる場を意識してその人にあった事を勧めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価機関 評価決定日	平成22年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
 このホームは大磯または二宮駅より、バスを利用して25～30分、車では国道1号線から少々入った所で、文字通り閑静な住宅地にある。近隣には田畑、城山公園、平塚学園グランド等があり、散歩コースにも恵まれている。

【経営理念と職員】
 法人理念に加え、ホームとして「ゆっくり、一緒に、楽しく」という独自の標語を掲げている。職員は利用者の人としての尊厳を大切に、介助についても、さりげない支援を心掛けている。職員のモラルは高く、定着率は良い。

【健康管理と安全管理】
 協力医療機関の医師より、定期的および随時の往診を受けている。ほとんどの利用者は入居前からの「かかりつけ医」の受診を継続している。
 緊急時の対応体制の構築、毎年2回の防災訓練、水・乾パン・必需品の備蓄、スプリンクラーの設置等により、安全管理に努めている。

【地域との様々な交流、行事、ボランティア他】
 自治会に加入し、地域行事に参加したり作品等を展覧する機会がある。近隣の障害者施設が経営する売店や喫茶を利用するなどの交流がある。行事には誕生日会、運動会、みかん狩り、夕涼み会、外食、ボランティアによるミニコンサート・書道・お菓子作り教室、庭でのサンマの炭焼き等の行事を利用者は楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム こゆるぎの家
ユニット名	さざんか

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のキーワード「声かけ・気配り・思いやり」と事業所のスローガン「ゆっくり、一緒に、楽しんで」を入職時に理解し、利用者のペースに合わせて日々の活動に取組んでいる	法人理念に加え、事業所独自の標語を事務室に掲示し、採用時研修やケース会議等で徹底している。職員は、それらを念頭において、一人ひとりの利用者と丁寧に向き合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で近隣の人と挨拶したり、隣接施設の行事に参加、地域の文化祭に参加、地元の祭りの休憩所を提供、又、近隣の方や利用者の知人に施設の行事への参加を呼びかけている	自治会に加入し、敬老会・どんど焼き等の行事に参加している。隣接の障害者施設での催しに参加したり、売店や喫茶店を利用している。三味線演奏などのボランティアを積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設の幼児とのふれあい行事に参加し、ボランティアや若い親と理解を深めている 地域行事に利用者の作品を展示している 看護学生の研修やボランティアを受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催し、事業所の入居状況・運営状況報告、事業所の今後についての意見交換を行い、内容は議事録に記録し、サービス向上に生かしている	家族代表2名、町の介護課長、地区長、地主、事業所職員複数名が参加し、年4回開催している。会議では運営状況を報告するほか、地域情報を得たり、防災時の協力もお願いしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの市町村担当者から、地域資源活用情報を得ている	障害福祉連絡会議に参加して、町の担当者から、福祉関係情報を入手している。また、事業所の隣に在宅介護支援相談センターがあるので日常的に相談したり、情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修等で職員に徹底されている 予測される危険に対しては、センサーを利用し見守りを強化している 玄関の施錠は夜間19時以降、朝7時半までのみ 居室に鍵はない	身体拘束については研修の機会を設け、身体拘束をしないケアを徹底している。玄関は夜間を除き施錠していない。ユニットの出入り口や必要な利用者の部屋にセンサーを設置し事故防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じて職員に徹底されている 職員が悩みを抱え込まないようにお互いよく話し合い、注意を払い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は知識を得、必要な利用者には活用できるよう支援している 現在一人利用中		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族、本人の不安や疑問点を伺い、十分に説明し、納得が得られた上で、契約している 解約時にも今後について十分に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている 年2回の家族会では、交流を深め家族や利用者の意見は記録し、ケース会議等で話し合い、運営に反映させている	年2回、家族会を開催し、親睦を図るとともに意見や要望を聴く場としている。面会時にも話を聞き、意見等はケース会議で取り上げ、出来る限り意向に沿うようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケート形式や、日常、意見や要望、提案を聞き、可能な限り反映させている	毎年「自己評価」を実施して、各職員は目標・提案・質問等を書面で提出し、合わせて上司との面談の機会を設け、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な評価をし、給与水準等に反映させている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部内研修を定期的に行い法人外の研修についても職員の力量に合わせ、職務として認めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行われていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を基に、利用者の受容に努め、時間が掛かっても本人に合わせることを第一にして、人間関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して任せてもらえるよう、納得のいくまで話し合い、良い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報と本人、家族からの聞き取りを基に、本人の意向を大事にして介護計画を立てている 必要に応じ介護保険外のサービスも検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしを分かち合い、共に暮らす気持ちで接し、趣味や調理等を一緒に行い楽しみながら、教えられることが多い		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が離れていても良い関係を築いていけるよう、連絡を密にし、通院や外出は極力協力してもらい利用者の介護についても話し合うようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚等の面会や、電話での連絡、年賀状や暑中見舞い等の支援をしている馴染みの場所をドライブしたり、馴染みの店で買い物したりしている	利用者は知り合いの訪問や、電話、文通の機会を楽しみにしており、職員が様々な形で支援している。時には家族と一緒に馴染みの店で買い物をしたり、墓参りもしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態に合わせて席を決め、良い関係が保てるように配慮している 他者との関わりが持ちにくい人には職員になるべく声掛けをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もホームを懐かしみ訪れてくれる家族がある 相談や支援ではないが、良い関係が続いている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅のように思い思いに暮らせるように意向の把握に努めている 伝達が困難な方は表情や態度から汲み取っている 把握した利用者の生活暦、趣味、暮らし方の意向はケース会議等で情報を共有している	入居時にアセスメントで本人や家族の希望、好きなこと趣味などを把握し、それが継続できるよう計画に反映させている。思いを伝えるのが難しい利用者については、表情や態度から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活については、本人や家族から出来るだけ細かく聞き、在宅サービスの利用経過の情報や記録も参考にしている 入所してからも徐々に本人、家族から話を聞き、支援の参考にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時の情報に加え、利用開始後の本人の状態によりその人の一日の過ごし方、出来る事や楽しみ方をケース会議等で検討し、全員で共有しサービスに生かしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、その他の関係者からの情報等を基にアセスメントを行い、本人の現状に即した介護計画を立てている 家族に介護計画を確認してもらい同意を得ている	毎月のケースカフアレックスやモニタリングに基づき、年1回見直しの会議を行い、利用者一人ひとりの目標の達成状況を評価し、介護計画を作成している。急変等必要に応じて状況に合わせた見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録を個別に取り体調の変化や普段と違った様子はすぐに共有し、柔軟な対応をしている 排泄の記録は体調把握の重要な情報源となる 細かい気付きも記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である特養の施設や大型車をリクリエーションに利用している 一時的に身体状況が悪くなった利用者の特養で受け入れてもらい、点滴等の適切な処置をしてもらったこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の文化祭に参加、隣接施設の喫茶店利用や行事への参加、地域祭りへの参加等、可能な限り交流し関わりを支援している 音楽やお菓子作り、その他のボランティアの協力を頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望でかかりつけ医を選択し、適切な医療を受けている 通院に家族が同行できない場合は職員が通院付き添いをしている 状況は通院往診ノートに記録している 年2回健康診断を受けている	利用者の約半数が入居前からのかかりつけ医を継続して受診し、定期健康診断もそこで行っている。関係情報も得ている。協力医の往診が月1回あり、歯科医は随時往診が可能な体制で支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHには看護職員はいないが法人内にいる看護職員と必要なときは連携を図れる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には利用者の混乱が少ないよう普段の様子を報告し、情報交換に努めている 退院も出来るだけ早期に出来るよう、家族、医師も交え相談し、受け入れ体制に協力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時の利用者の状況により対応する事を、事前に家族医師と相談している 「介護の緊急事態マニュアル」を整備し重篤時はマニュアルに基づき対応する 職員間でも意見交換し方針を共有している	終末期における対応は、現状では、できる範囲までということを家族に伝えている。重度化した場合には、家族や関係医に相談し、職員間の情報交換を密にして支援に努めている。	重度化した場合の事業所の対応について、指針を明文化し、家族や関係者と方針を共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態や事故発生時に備え対応マニュアルを作成し、職員全体が把握しいつでも見れる所にかけてある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて年2回防災訓練を実施している 地域とは自治体を通じて協力体制を築いている 家具の転倒防止、非常食等の備蓄を行っている	全員参加の防災訓練を年2回実施している。家具の転倒防止策を施している。水、乾パン、生活必需品等を備蓄して、災害に備えている。昨年、スプリンクラーを設置した。	地域との協力体制については、運営推進会議等で話題になっているが、火災発生時の協力体制の構築に向けた取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は、誇りを傷付けないように、気をつけている。特に排泄の声かけは他の利用者に聞こえないように配慮している 馴れ合いからずさんにならないように、ケース会議で話し合っている	研修会やケース会議のほか、関係マニュアルで、利用者のプライドやプライバシーを確保することの重要性、心構えについて学習している。特に排泄誘導、着換え等の介助の際には心配りしている。何ごとにも馴れ合いにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を作り、声掛けをし希望を聞き出すようにしている 誕生日は食べたい物を聞いて提供している 何をしたいか、何処に行きたいか等、会話の中で問いかけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の生活のペースは出来ているが、その日の体調に合わせて、朝ゆっくり起きたり、食事の時間をずらしたりしている 自由時間は編物や読書調理等、好きなことを自由に行ってもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族と相談して衣類や身の回りの物を揃えている 衣類の組み合わせや、整容、爪切り等、必要に応じ助言や介助を行っている 定期的に理美容院に行き、歩行困難な人は訪問美容を依頼している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	野菜刻み等の調理の下ごしらえ、盛り付け、茶碗拭き、下膳、テー	下ごしらえ、盛り付け、片付け、食事を	利用者は職員と一緒に楽しんでいた。利

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皿洗い、お風呂、洗濯、テーブル拭き等の役割を持ってもらっている。調理の能力は高く、職員が教わる事も多い。一緒に作る事で食事中、食事前後の会話も多い	利用者は職員と一緒に楽しんでいる。利用者の状態によってトロミ付けをしたり、形態を変えて提供している。献立は出来るだけ希望を聞いて作成している。外食の機会もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、水分不足分については追加摂取している 体重を1ヶ月に1回量り、食生活の目安にしている 塩分、糖分、コレステロール等、利用者により調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている 必要に応じ介助している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の人を除き、排泄のパターンを把握し、時間による誘導や、紙パンツや布パンツの使い分けによる快適な排泄を心掛けている 要介護者の排泄状況を記録している	排泄介助が必要な利用者については、排泄パターンを把握し、タイミングを見てトイレに誘導している。日中と夜間で紙パンツと布パンツを使い分けて、快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を日課とし、食材の工夫（繊維の多い物 ヨーグルト 果物等）や、水分摂取を心掛けている 排泄記録を付け、便秘が続かないように薬でコントロールする人もいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ一日おきに午後入浴している 午後行事のある時は午前中に入浴する事もある 気持ちよく入浴できるよう声掛けし、安全に入浴できるよう、見守り、介助している	入浴は、通常、1日おきの予定になっているが、毎日可能である。入浴の際には、見守りや介助をし、湯の温度にも配慮している。菖蒲湯や柚子湯にしたり、バラの花を入れることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては体調を考慮し午後の昼寝をすすめている 夜間良く休めるように、日中適度な運動を心掛け、寝具や室温、湿度を考慮している 冷え性の人は湯たんぽ、電気毛布を利用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が処方に基づき管理し、便秘薬は排泄状況で医師の指示の基調整している 服薬管理表を作成し、いつでも確認できるようになっている 変更があった場合は随時業務日誌で伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事や外出を行い楽しんでもらっている 掃除や調理等の手伝いで役割を持って貰ったり、読書、編物、縫い物等の趣味を継続出来るよう支援している 飲酒を楽しむにしている方もある		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気によるが外出の機会を設け、気分転換を図るよう心掛けている 散歩は日課になっており、天気が良ければ希望を聞いて必ず行っている 普段の食材の買出しにもなるべく利用者を誘っている	外出は健康や気分転換のために日課にしている。隣の障害者施設の売店や喫茶店の利用、外食、ドライブ、買い物等の機会も利用者の楽しみになっている。平塚学園のグラウンド内の歩道も利用させてもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、小遣いを所持し、外出時買い物する楽しみを持ってもらっている 買い物時は見守りながら、自分で買い物できるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、施設の電話は自由に使って貰っている 掛けられない場合は職員が手伝う 年賀葉書、暑中見舞い等は準備を手伝い、なるべく自分の力で書いて貰っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に整理整頓してリビングや玄関には季節感のある物を飾っている 夏は玄関前に葦を掛け、ゴーヤや朝顔等を植え、涼しい空間を作っている 食事時にはテレビを消し静かに食事をする	ホーム内の照明や採光を始め、足回りをフラットにし、手すり、ベンチを配置するなど隅々まで安全に配慮している。テレビ他にも音量への心配りがあった。居間には行事の写真、様々な作品、季節の花が飾られ、季節感を演出し、温かく家庭的な雰囲気を醸しだしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りにはソファが配置され、気の合った者同士でくつろいだり、ゆったりと編物をしたり、新聞を読んだりしている 玄関前のベンチでは散歩の帰りに日向ぼっこをする人もある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物の持込をすすめており、入居案内に明記している 居室には馴染みの家具等が持ち込まれ、床は好みで、畳やフロアマットとなっている	居室には畳が敷かれ、落ち着いた雰囲気です。愛用の鏡台、花瓶、タンス、テレビ、仏壇、家族の写真、自らが手がけた絵画や書道の作品等が持ち込まれ居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に玄関の出入り、段差の上り下り、歩行が出来るように、段差や手摺に蛍光テープが貼ってある 施設内はバリアフリーになっており、随所に手摺が付いている トイレには表示が掛けてある		

平成 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	事業の開始年月日	
	指定年月日	
法人名		
事業所名		
所在地	()	
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名 通い定員 名 宿泊定員 名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計 名 ユニット数 ユニット
自己評価作成日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム こゆるぎの家
ユニット名	やまゆり

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り上げ、管理者は職員へ話し、理解、協力を求め、実践に向けて取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとの地域行事には可能な限り参加し、お祭りの休憩場所を提供したり、地区の文化祭に作品を出展し日常的に交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「こゆるぎの家」の存在が知られ、運営懇談会で認知症の人の理解や支援の方法を話し合い、取り組んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営懇談会では利用状況などを報告し、意見を聞き、サービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	障害福祉連絡会に参加、行事などの情報交換、町福祉課、消防、社協、包括などの日常的に連携している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修を行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で説明、研修がなされており、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学ぶ機会を持っているが、現在該当する利用者さんがいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書提示しながら口頭でも説明し、理解、納得を促している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を実施し、ご意見をきっており、運営に反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議（年2～3回）時に発言できる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に目標シートがあり、向上心を持って働けるようになっており、勤務年数などに応じて資格取得や研修の参加を促している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加するよう求められており、スキルアップの研修を希望する場合も賛同が得られる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と交流する機会をつくる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聴くようにし、本人の関係する様々な問題を把握するよう努め、安心して落ち着ける状況をつくれるよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の状況把握に努め、自宅などを訪問し求められている事をよく聴き、ホームについても十分説明できる時間をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と密に連絡をとり、本人の状況に応じて入所前に来所の機会をつくったりしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある時は友人や家族のように喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として日常生活の中から知恵や経験を知り、学ぶことが多くある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく上で同じ目的を持って、支えてくれる人として協力し合っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に家族や本人の了解を得られた方の訪問は自由でまた手紙を出したりなどの関係が途切れないように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から観察し、利用者同士の関係を把握し、食事の席やレクリエーションでの位置は適宜、席替えをし、ほど良い関係をつくれるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した家族からの訪問や連絡は大切にしておき、また医療福祉関係の相談体制はある		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望を表出できない方には普段の会話や行動でその人の意向を把握し、その人らしく生活できるよう支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の情報を基にこれまでの生活歴などが個人ファイルにあり、家族からの情報も伝えることができる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議や日常の申し送り、日勤日誌の記録などで現状を総合的に把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者の意見を基にアセスメントを行い、介護計画を作成しており、ケース会議や日常の申し送りで随時見直しして対応している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を毎日記録しており、個人生活状況記録や通院・往診ノートを活用し、随時見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、病院の付き添いなど、必要な時に家族が急に対応できない場合にも工夫し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるミニ・コンサートへの参加や本人の希望で町のサークル等に参加しており、支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を選択決定しており、かかりつけ医の受診時には日頃の様子を記録などにより伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の運営推進委員会に看護師がいて、なにかと相談でき、またホームの職員に准看護師がおり、相談、支援を受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常の様子を病院関係者には報告し、管理者と病院側が情報を交換して連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の意向を最大限に取り入れ、その人らしく終末期を迎えられるよう何回か話し合いを重ね、相談を受け支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態の対応マニュアルを作成し、職員全体が内容を熟知しているが訓練を定期的に行う事が難しい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時に備えた避難訓練を実施しており、開所当初より地域の協力をお願いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけなど一人ひとりの誇りやプライバシーを保ちながら対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい環境をつくるよう心がけをし、基本的には希望が自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが職員体制により対応できない事もあり、職員のペースが優先される事の内容を注意しあっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望をきいて理容室、美容院を利用している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では本人の好きなものを準備したり、職員と一緒に食事づくりをし、食器洗いや拭きも一緒にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体重増減を把握しており、食事量の調整、調理を工夫をし、健康状態に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけ、誘導にて個々に対応した口腔ケアを行っており、訪問歯科医との連携も図っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して声かけに気をつけ、一人ひとりに合った支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理食材の工夫や水分摂取、散歩や体操などで予防に取り組んでおり、医師と相談もしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようになっており、時間帯も希望にあわせているが夜勤帯は職員が一人なので行っていない。湯温などは希望にそうようしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや引継ぎで睡眠状況を把握しており、日中の散歩や運動で気持ちよく眠れるよう支援しており、またお気に入りの布団、部屋の明るさなど長年の習慣を大事にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が把握しており、管理している。また通院・往診ノートにて変化を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで飼っていた猫の世話やホーム内の役割について個別に考え、支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良ければ散歩やドライブなど外出を心がけ、希望があれば買い物にまた家族との外出は自由なのでお墓参りなど本人の希望に添えるようにしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に対応して金銭管理を行っており、買い物などでは支払いを見守り、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由にでき、必要があれば文章を考えるお手伝いをし、支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音また職員の会話のトーンなどその都度配慮している。壁飾りには季節感を取り入れたものを作り、花を置いたり、廊下には入居者の作品や写真を貼っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを3箇所設置しているので自由に選ぶ事ができるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人、家族で準備をし、仏壇を持ってこられたり、慣れた布団を使用したり、居心地良く過ごせる工夫に努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口には表札があり、場所の表示も馴染みの言葉で提示している。手作りカレンダーには過ぎた日をマークしわかりやすく、混乱や失敗を招かないよう工夫している		